

【ベストプレゼンテーション賞選定記】

プログラム委員長 石井信明

2012年12月1日(土)、文教大学湘南キャンパスにて、第8回情報システム学会全国大会・研究発表大会が開催されました。本大会では、一昨年からスタートしたベストプレゼンテーション (BP) 賞に加え特別賞が設けられ、八島敬暁 (慶應義塾大学) さんがBP賞を、岩崎和隆 (神奈川県庁) さんが特別賞を、それぞれ受賞されました。

・ベストプレゼンテーション賞

八島敬暁、山崎淳城、瀬良篤、藤田智紀、飯島正 (慶應義塾大学) : 人間の行動シミュレーションのためのパーソナリティと有限の処理能力を有するエージェントモデルの構築

・ベストプレゼンテーション 特別賞

岩崎和隆 (神奈川県庁) : 地方の公的機関の情報システム調達実務における供給者評価方法について

BP賞、特別賞の選定にあたっては、投稿された論文をプログラム委員が2週間かけて書類審査を行い、その結果、BP賞候補5篇、特別賞候補6編を選定しました。大会当日は、プログラム委員で手分けをして候補論文の発表を聴講し、大会終了後に、書き物 (論文) と発表を総合評価した結果、最初に記載したように、各賞が決まりました。

BP賞の八島敬暁さんの発表については、情報システム開発の重要要素である人間の行動モデルに関するシミュレーション事例の評価・検証において、質的評価の方法を取り入れて妥当性の根拠を示しており有用性が高いと判断されました。特に、社会心理学などで使われる評価手法について広くサーベイし理解した上で質的評価を導入したことが、今後の情報システムの事例研究報告論文のあり方に、一つの指針を与えるものであるということが評価され、BP賞の受賞となりました。

特別賞の岩崎和隆さんの発表については、公的機関の情報システム調達時の発注方式と開発時のプロジェクト管理に斬新な方法を実践している点が評価されました。すなわち論文では、公的機関の情報システム開発に失敗事例が多いとの危機意識から、仕様書の精度向上に努め、発注方式の選定、システム機能と供給者の業務遂行能力の評価方法、落札者決定基準等の改善に工夫を積み重ねたことが、その経緯を含めて具体的かつ詳細に筋道を立てて記述されています。本論文は、今後、公的機関の情報システム開発・発注プロセスのモデルともなり得るもので、有用性が高いと言えます。今日社会におけるこの問題の重要性に鑑み、特別賞の受賞となりました。

各賞の授賞は発表者のモチベーションをあげ、今大会でも良い効果が生じたように思います。来年度以降も引き続き研究発表をよろしくお願ひします。